

令和7年度 学校評価自己評価表【最終】

令和8年2月6日

廿日市市立平良小学校

中期経営目標		短期経営目標	分掌	目標達成のための方策	評価項目 指 標	目標値	中間	最終	評価	結果と課題の分析	コメント	改善方策
確かな学力	主体的に学ぶ児童の育成	学びに向かう意欲があり、基礎的な学力が定着している。 【重点項目】	教務・研究	児童が自分の課題と向き合い、見通しを持って学習に取り組むような活動の充実を図る。	【基礎的な学力の定着】 学期ごとの全てのテストの平均値(国・算)において、75%未満の児童と85%以上の児童の割合	75%未満 15%	国語:11.9% 算数:17.4% 平均:14.6%	国語:12.1% 算数:19.1% 平均:15.6%	B	○75%未満は0.6ポイント目標値を上回り、85%以上は8.8ポイント目標値を上回った。中間結果からは下がった。 【教職員アンケート】単元末テスト・標準学力調査等において、75%未満の児童を15%以下にすることを意識し、個に応じた手立てを考え、授業を行っている。(90.5%→91.7%) ・教員は1学期以上に学力の定着を目指して日々の授業に取り組んだことがうかがえる。学年やクラスごとに家庭学習の工夫や反復学習、学び合いを生かした学習を取り入れ、学習の定着を図った。 ・国語科については成果が見られるが、算数科については、75%に満たない児童の割合が17.4%→19.1%と目標値を下回っている。85%以上の児童は目標値を上回っていることから低位の児童への支援に課題があることが分かる。その原因として、課題のある児童は家庭の協力が得にくい場合が多く、家庭学習の成果が出にくいことや、教員の指導力に差があり、クラス間で差が出ていることがあげられる。	○点数はすでに十分なのではないか。もちろん高ければ高い方がよいが、 ○対話を中心に取り組んだのは効果が出ている。 ○学校では、一生懸命取り組んでおられる。人手不足の中、先生たちも取捨選択して、できる範囲でがんばってもらえればよい。 ◆算数の調査で低位の児童に課題があるということだったが、中1でまさにその状態。基本的な算数で躓いている生徒が理科・算数でく苦しんでいる。小中連携をして課題解決につなげていけたらよい。 ◆アンケートなど自己評価を中心に行われているが、グループで評価などよいものではないか。 ○たまたまかもしれないが、先生が一方的に説明するような授業ではなく、児童が活動する、子供主体の授業ばかりで感心した。	・標準学力調査の結果をもとに検証を行い、定着に課題がある単元を把握する。その上で、3月をまとめの期間として、各学年で学び残しがないように、1学期末に学年で設定した必ず身に付けさせる力の確実な定着を図る。 ・組織的な学力向上のために、来年度に向けて、学校全体で基礎基本の定着のために取り組めることについて話し合い、教務部を中心に推進していく。
						85%以上 60%	国語:74.5% 算数:65.1% 平均:69.8%	国語:72.2% 算数:65.5% 平均:68.8%	A			
						自分の考えをもち、説明する力が身に付いている。 【小・中学校共通項目】	対話を通して、児童が他者と協働しながら学びを深めるような授業改善を推進する。	【主体性】 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合 ①全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙:6年生対象 ②児童アンケート:全学年対象	85%			
				【課題の設定・自己調整】 ①「問いを立てながら学習に取り組むことができた。」と答えた児童の割合 ②「自分の学びを振り返りながら考えを深めることができた。」と答えた児童の割合	85%			①77% ②78.1%	①84.2% ②85.1%	B	・来年度に向けて、引き続き「問いを重視した単元計画の工夫」を研究の視点として挙げ、探究的な学びへの取組を推進する。 ・振り返りの視点をそろえたり、振り返りを積み上げたりして自分の学びを客観的に把握させることにより、児童自身が課題や成長を感じ、学びにつなげていけるようにする。	
豊かな心	規範意識を向上させ、友達と高まり合う児童の育成	基本的な生活習慣・学習習慣が身に付いている。 人のためになる活動を通して自己有用感が高まっている。 【小・中学校共通項目】	生徒指導	礼儀や規律など、社会生活で必要な生活習慣の質的向上を図る取組を推進する。	【協働的な学び】 「友達との話し合いで、よりよい考えに気付くことができた。」と答えた児童の割合	85%	82.2%	93.5%	A	○85%の目標値を8.6ポイント上回った。 ・対話タイムや授業で対話の時間を設定し、対話する楽しさを味わわせたり、聞き合うことで新たな気付きを得たりする機会をもつように取り組んできた。【教職員アンケート】児童同士に話し合いをさせ、多様な視点や考え方の広がりを実感できるようにしている。(90.5%→91.6%) ・対話を推進するためには、「安心して対話できる学級経営」が土台であることを全体で確認し、まずは、相手の話を反応しながら受容的に聞けるように、反応の仕方の型を示したり、目指す対話の姿を児童を共有する時間(朝会)を設けたりした。 ・児童が問いにこたわって追究する場面を適切に設けることで、「自分の考えを伝えたい」「友だちの考えを聞きたい」など対話への意欲が生まれた。 ・相手の発言を受け止めて反応したり、考えを交流したりすることはできるようになったが、新たな考えを生み出すなど最適解や納得解を追究するような、対話の質的深まりには課題がある。	・来年度に向けて、「協働的に考えを深める学習活動の工夫」を研究の視点として挙げる。特に、安心して対話できる学級経営について重点化し、話しやすい雰囲気醸成に努める。 ・対話による思考の深まりが促せるように、教師の「児童の発言をつなぐ」「問い返しや切り返しの質を上げる」など、引き続き教師のファシリテーターとしての力量を高める。 ・引き続き、根拠や理由を明確にして考えを説明させる指導に取り組む。	
				「貢献することのよさや大切さを実感できるような活動や評価を充実させる。	【貢献することによる自己有用感の向上】 「みんなの生活をよりよくするために進んで行動することで、人の役に立っていると思う。」と答えた児童の割合	85%	88.7%	89.1%	A	○「自分のあいさつのレベルが向上している」と答えた児童の割合は82.4%で、目標値を下回った。【教職員アンケート】児童が進んであいさつできるような指導や工夫をしている。(91.6%) ・ベア学級での挨拶運動を通して、人数が増えることで活気が出た。 ・あいさつ名人の取組を通して、自分の目標レベルを設定することで、今の自分の状況や目指す姿を具体的に捉えることができる児童が増えた。振り返りで自己評価をすることに加え、生活委員会からの評価をもらうことにより、意欲向上に繋がっている。あいさつをしているのに自己評価が低い児童に対しては、肯定的な評価が継続して必要であると考えられる。 ○「みんなの生活をよりよくするために進んで行動することで、人の役に立っていると思う。」と答えた児童の割合は89.1%で、目標値を上回った。【教職員アンケート】学校生活をよりよくするための話し合いや活動の場を工夫している。(91.7%) ・委員会朝会を行うことで、各委員会が全校に伝えたいことを伝えることができたり、みんなで取り組んだりすることができた。 ・各学級での係活動も全体のことを考えて自主的に活動する姿が見られた。 ・いろいろな場面で活躍している児童が多いが、自己有用感が高くない児童もいるため、活動の場の更なる工夫が必要である。	○地域で児童は挨拶をよくしていると思う。 ▲中学校の入学説明会での児童の挨拶は、他校の児童がいたのもあると思うが小さかった。生徒指導主事がやり直しをさせたら大きな挨拶になった。中学校でも挨拶は大切にしているが、小中連携をしていきましょう。 ○特技発表会や身だしなみを整える呼びかけのボスターなど、児童運営委員会の活動がよい。	
健やかな体	心身の健康や安全な生活に向けて、考え行動する児童の育成	危険を避け、安全に過ごすための適切な判断力が身に付いている。 心身の健康につながる活動を実践している。	健康教育	デジタルシティズンシップ教育を推進する。	【デジタルの自律的有効活用について】 チャレンジウィズメディアの結果で「自分のチャレンジレベルを3日間以上達成した。」と答えた児童の割合	87%	87.1%	83.6%	B	○SNSの利用のしかた、ルールなども、中学校区で連携できたらよい。	○来年度チャレンジウィズメディアの実施に向けて、保健委員会を中心に新しい啓発活動のアイデアを出し合い推進することで、チャレンジウィズメディアに取り組むことへの意欲を高めるとともに、規則正しい生活習慣を送ることへ意欲も高める。	
				運動することへの意欲向上を図る授業や活動を推進する。	【運動の能力に関する課題の把握】 「新体力テストの結果をもとに、自分の運動に関する課題を見つけ、目標を持つことができた。」と答えた児童の割合	90%	85.9%	87.4%	B	○体力向上ステップアップカードの活用が今年2年目になり、児童も担任も意識して取り組む割合が増えた。 ○秋になり、外遊びをする児童が増え、意欲的に運動する姿が見られた。教員も一緒に遊ぶ姿が見られた。 ○運動会のない2学期に、どの学年も体育の授業に集中して取り組むことができた。		
					【主体的に運動を行うこと】 「体育科の授業や大休憩・昼休憩などに進んで運動することができた。」と答えた児童の割合	85%	66.1%	79.0%	B			

「評価」の項目については、「達成度」は「報告期の数値／目標値」である。「目標値」に対する「達成度」をA～Dで評価する。(A:100% B:80%以上 C:60%以上 D:60%未満)